

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和5年12月28日
タイトル	水土里レポートが繋ぐ土地改良区の輪！2023
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和5年12月19日（火）岡山県総社市の湛井十二箇郷組合 柴田健二議長様をはじめ、15名の皆様が視察研修に来られました。

水土里ネット福山の土地改良区会館2階会議室において、杉原郁充常務理事から「福山市土地改良区の概要」、「七社頭首工管理規程及び農業用水システムの概要」について説明しました。

水土里ネット福山が位置する福山市の市街地は、約400年前に初代藩主 水野勝成により福山城の築城とともに干拓されたもので、当時整備された水路の一部は現在も七社頭首工用水の農業用水路として利用されています。

質疑応答では、農業用水路は利水・治水の両方を考えて管理しなくてはならないことや高齢化や離農により水路などの土地改良施設の維持管理が難しくなっていることなど施設の維持管理に関する事や予算や賦課金などの会計経理に関する事などについて意見交換しました。



共通する課題について具体的に意見交換することができました

その後、土地改良区会館より上流約10kmに位置する、芦田川用水の「七社頭首工」の視察をするためバスで移動しました。道中のバスの中にて土地改良施設や福山の特産物の「くわい」について説明しました。

七社頭首工では河原敷まで下りて間近で取水樋門を視察しました。頭首工や樋門の仕組みなど熱心に質問しておられました。

七社頭首工は疏水百選に選ばれた「芦田川用水」の取水施設で三川ダムからの放流水を一級河川芦田川より取水し、かんがい面積約300haに配水しています。

受益地の主な農作物は水稻ですが福山市の特産物である「くわい」は、収穫時に用水を用いるため、10月から12月は「くわい収穫期」として水利権があることが特徴です。



水土里ネット福山は21世紀土地改良区創造運動の一環として、様々な活動を「水土里レポート」にして継続的に投稿しております。

レポートをきっかけに「水土里ネット」の輪が広がっていくことを願っております。